

事務事業名 芸術鑑賞事業

政策:05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策:01 学校教育の充実

部名:教育部

課名:学校教育課

基本事業:04 「豊かな心」を育む

計画年度	平成21年度 ~ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内小中学校 児童生徒		学校音楽鑑賞教室を毎年1公演開催する。 （主催 千葉県、千葉県教育委員会、市町村教育委員会、参加校） 参加校は基本毎年1校。小規模校については複数校開催可 （上限は、のぎくプラザのホール収容人数） 開催費用の1/3を負担する。（千葉県と参加校が各1/3負担）				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		オーケストラの演奏を直に体験することにより、豊かな情操を養い、音楽への意欲を高める。				
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	参加校数	校	-	1	1	1
活動指標						
成果指標	参加校児童生徒の満足度（%）	%	-	90	80	80
成果指標						
事業費		千円	0	236	236	
うち一般財源		千円	0	236	236	
5 目的妥当性						
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い		事業開催費の一部を負担することにより、児童生徒の家庭環境への配慮と保護者の理解が得られやすい。				
6 上位の基本事業への貢献度						
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業		児童生徒が音楽活動を通して、未来への希望・前向きに生きる意欲の育成が図られ、豊かな心の育成につながる。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他		会場の収容人数の関係もあり、対象校を増やすことは難しい。				
8 有効性（成果状況）						
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない		参加者の満足度は非常に高かった。オーケストラの演奏を通して、生の音楽に触れることにより、児童生徒の情操を深めることができた。				
9 有効性（成果向上余地）						
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない		文化庁が開催する事業があるが、全国規模の事業のため、定期的な開催が難しい。				
11 効率性（コスト削減の方法）						
ある ない		現在の負担額を削減すると、各家庭の負担が大きくなり保護者の理解が得られにくくなると思われるので、期待する効果は得られないと考える。				